

生徒シンポジウム 2017 第8議題「英語の次なる言語」

議長：森下 亜子(桐光学園高等学校)

書記：井澤 大樹(城北高等学校)

①グローバル化とは

まず初めに世間一般で言われるグローバル化とは何かを考えた。

グローバル化＝

- ・アメリカ化→発展途上国などの他の国がアメリカに合わせている
- ・英語
- ・インターネット、デジタル化

グローバル化に対するイメージは多々あるが今回は特にこの英語化について議論した。

その上でまず全世界で英語を話せる人は何%か、さらにその中でも英語を母国語として話す人は何%かをチームに分かれて考えた。両チームとも40%や50%と答えた。

しかし、正解は話せる人が25%、その中でも母国語にしている人は22%(全体の5.5%)である。すなわち英語だけ話せっていても世界の75%の人とは話すことができず、これではグローバル化＝英語に疑問が生じる。つまり英語の他にも話せる言語(第二外国語)が必要である。

②英語 or 現地語？

①より、グローバル化＝英語とは言えない。しかし、現在国際連合やヨーロッパ連合などの国際会議では公用語として英語が用いられ、世界の共通言語は英語である。

では現地語と英語の違いは何だろう？

現地語と英語を比較して考えた。

- ・英語はすでに学んでいるから理解し話せる情報の量では現地語を上回っている
- ・しかし現地語は英語で伝えにくいことも伝えることができる→情報の質は現地語の方が高い

上記により、英語は情報の量が多く得やすく、現地語は情報の質が良い。

③メリットとデメリット

次に現地語(第二外国語)のメリットとデメリットは何か、さらにデメリットの解決法はあるかどうか考えた。

メリット

- ・現地語しか話せない人とも会話できる
- ・現地に住める
- ・就職に有利

- ・現地の人と接しやすくなる

デメリット

- ・学ぶ場が少ない

→参考書で一から学ぶのではなく、その国の興味のあることをきっかけに派生させながら学ぶ(例: ドラマ、漫画、アニメ)

- ・他言語を同時に学ぶと発音などが混ざってしまう

→積極的に使うことで慣れる

- ・習得に時間がかかる

→現地に行って使う。またはその言語の興味のあることを見つけてそこから勉強する

- ・使える現場が少ない

→自分から使える場所を探しに行く

④結論

最後に①②③の議論を踏まえて、今後私達は第二外国語とどう向き合っていけばよいかを考えた。そして以下の結論に至った。

英語の他に第二外国語として現地の言葉を話せると英語を話すより質の高い会話ができる、現地の人とより良い関係を築くことができる。

しかし、現地語には③のようなデメリットがあり、**国や自分の環境、目的に応じて使う言語を考える必要がある。**